

玉ねぎの苗作り

玉ねぎは、春から年末まで出荷ができる直売所の定番野菜です。早生・中生・晩生種の組み合わせによる大量かつ高品質な玉ねぎ作りに向けて、良質な苗作りに取り組みましょう。

ポイント①～播種・定植時期の確認～

苗の出来具合は玉ねぎの品質を左右します。早く播きすぎると大苗になり、とう立ち・分球を起こしやすく、遅まきでは小苗で越冬率が低くなります。播種後2ヶ月くらい（11月頃）の定植を目途にして、9月中下旬には播種しましょう。

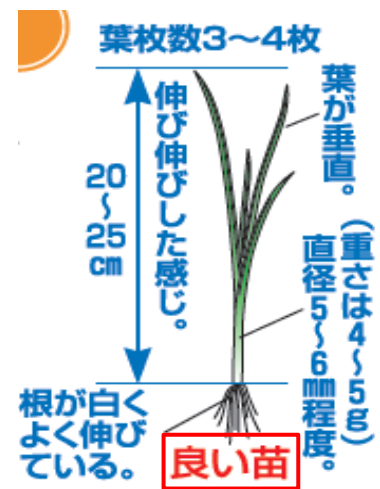
セルトレイや育苗箱では、土壌病害の影響や降雨による種の流出を受けづらく、また雑草の管理が不要等、安定した苗作りが可能です。

育苗方法	セルトレイ、ポット	育苗箱
培土	市販の培土（リン酸を多く含むもの）	
播種	セルトレイ 1粒播き ポット 10～20粒播き	5cm 間隔に浅い溝をつけて条播き。 薄く覆土する。

他、「地床育苗」での育苗も可能です。

ポイント②～育苗管理～

- 播種後、土が乾燥すると発芽率が悪くなるため、もみ殻や新聞紙をかぶせます。
発芽後は光を当てる必要があるため、被覆をとります。
- 草丈約 6～7cm 頃に 1 回目の間引き。
草丈約 10cm 頃に 2 回目の間引き（間隔 1.5cm）



ポイント③～病虫害対策～

ネキリムシ類：ガードベイト A（3g/m²、生育初期、5回以内）

タマネギバエ：未熟な有機物や鶏糞を用いると多発しやすいので注意

ダイアジノン粒剤 5（3～5g/m²、播種時又は定植時、2回以内）

べと病：風通しのよい場所で管理、密植の場合は適度な間引き

ダコニール 1000（1000倍、収穫7日前まで、6回以内）

峡南農務事務所 農業農村支援課

（峡南地域普及センター）

生産振興担当

055-240-4131